私たちは住友信託銀行です

平成20年支店社会貢献活動報告

With You

あなたとともに。
社会とともに。
地球とともに。

いま、知っておきたいこと――生物多様性……2
住友信託銀行の社会貢献活動――社長インタビュー…10
クローズアップ支店活動……14
支店活動紹介……20

いま、知っておきたいこと

生物多様性

監修：(財)日本生態系協会 事務局長　関　健志

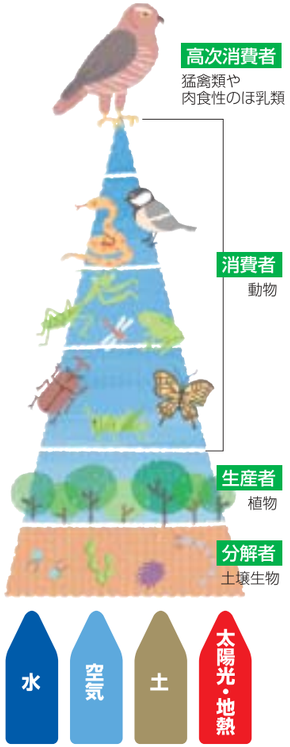
1992年ブラジルのリオデジャネイロにおいて、地球環境保護の目的から、持続可能な開発のあり方を考え、それを実現していくための対策を決める国際会議が開かれました。この地球サミット（国連環境開発会議）と呼ばれる会議にあわせ、「生物多様性条約」が採択され、現在、日本を含む190ヵ国が加盟しています。「生物多様性」とは地球上にさまざまな生きものが存在するということです。それによって、人間の生存に欠かせない生物資源を供給する自然の生態系が健全に保たれています。ところが今、私たちの世界では、この「生物多様性」が急速に失われつつあります。

■なぜ、自然を守らなければならないのか？

私たちの生活は、自然の恩恵なくして成立しません。日々の食糧はもちろん、水、燃料、繊維、木材、薬にいたるまであらゆる原材料やエネルギーを人間は自然の資源に依存しています。自然連鎖のしくみは「生態系」と呼ばれ、そこでは多種多様な生きものがそれぞれ大切な役割を担い、相互に影響しあってバランスを保つことで、地球の環境を支えています。

地球上に存在する生きものは、たった一つの生命体から進化し、様々な環境変化に適応しながら多様性を拡大して複雑な生態系を築いたと考えられています。生きものの種類が減ると生態系のバランスが崩れ、自然の資源が失われることにつながります。

人間は有史以来、自然を利用して文明社会を作り上げてきました。それに伴う科学や技術の進歩は私たちの生活を豊かで便利にしましたが、同時に自然環境に対して大きな負荷を与えてきたことは否めません。受容できる限界を超えた開発や資源の収奪により、自然生態系が再生不可能なまでに破壊され、それが衰退・滅亡の原因となった古代文明も、歴史上存在するとされています。自然の資源は有限です。私たちがこのことについて何も考えず、このままダメージを与え続ければ、それは生態系の危機によって人間の生存が脅かされるという形で自分に返ってきます。



生態系のしくみ
（タカがすむ健全な生態系）

■熱帯雨林が伐採されると何が起こる？

例えば、近年問題になっている熱帯雨林の減少は、私たちにどんな影響を及ぼすのでしょうか。テレビや新聞などでも報道されている地球温暖化が最も知られるところですが、それとともに専門家の間で懸念されているのが生物資源の問題です。熱帯雨林には、未だ発見されていない微生物なども含めて、地球上の野生動植物の半数近くが生息・生育しているといわれています。その野生動植物から将来、がんやエイズなどの特効薬が作られる可能性があるのです。これまでも、こうした野生動植物から多数の新薬が開発されてきました。種の宝庫である熱帯雨林の減少は、多くの生物の絶滅とともに、私たちに多大な経済的損失をもたらすことになります。

自然に対する正しい知識とは

わたしたちの生活は、自然との調和のもとに成り立っています。便利さだけを求めると、あとでとんでもないしっぺ返しを食らうことにもなりかねません。また、失った自然を元の状態に近づけるためには、莫大な時間と労力がかかります。

いま、地球上で起っていること

生物多様性が失われつつある現実をはっきりと示しているのが、世界中でさまざまな生きものが急激なスピードで絶滅しているという状況です。地球上の生物種の数は、確認されているもので約175万種、未知のものを含めると数千万種とも数億種とも言われますが、今や全世界で少なくとも1万6000種以上の生物が絶滅の危機にあるとされています。種の絶滅がこのままの速さで進めば地球の生態系はどんどん崩れていき、その一部である人間が生存していくことも危ぶまれます。

■加速する絶滅スピード──負の連鎖

生物の歴史は進化と絶滅の繰り返しであり、これまで恐竜をはじめ多くの種が絶滅してきました。ところが今、地球上で起きている種の絶滅は自然のプロセスによるものではありません。乱獲、開発による生息地の破壊、外来種による影響、環境汚染や地球温暖化など人間のさまざまな行いが原因となって、絶滅のスピードが加速しているのです。1年に4万種、1日に100種以上と言われる急速な種の絶滅は生態系を崩し、それによって絶滅する種がさらに増えるという悪循環をもたらします。こうした負の連鎖を断ち切るには、絶滅の恐れのある生物を個々に保護するだけでなく、自然の生態系全体を回復することが必要になります。

■国内で顕在化する生物多様性の危機

気候的な条件に恵まれ、世界的にみても自然に恵まれているといわれている日本においても、生物多様性の危機は深刻なものとなっています。

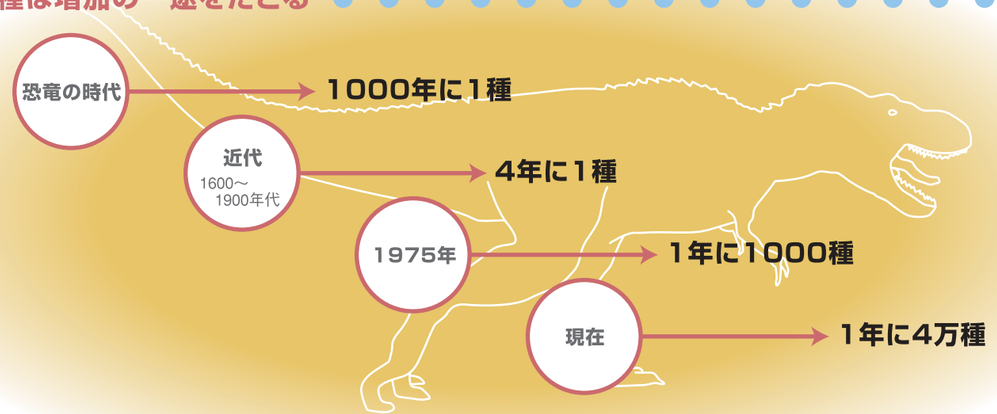
戦後の高度経済成長や国土の開発は日本を便利で物質的に豊かな社会にしましたが、他方それに伴い自然破壊が進み、日本各地で野生動植物の生息・生育地の減少、自然環境の悪化などが起こるようになりました。

また、農林業の低迷や過疎化などで里山や草原が利用されなくなり、自然に対する人間の働きかけが減ったことも悪影響を及ぼしています。その結果、水田、ため池、草原、雑木林などに生息する生物が絶滅の危機に瀕しているのです。

さらにブラックバスやマングースのように、もともとその土地にいなかった生物を人間が持ち込んだことによって本来の生態系が脅かされるという外来種の問題も深刻なものになっています。外来種はその地に元からいた生物を捕食したり、生息場所やエサを奪うなどして個体数を減少させ、また近縁の種と交雑して遺伝子の撹乱をもたらすなどして、地域本来の生態系に大きなダメージを与えています。

こうした自然生態系の乱れから、シカやイノシシなど鳥獣による農林業被害も増加しています。中でも大きな被害をもたらしているシカは、暖冬による少雪化や天敵であるオオカミの絶滅などによって個体数と生息地を拡大し、希少植物を食い荒らすなど自然の植生も破壊しています。

絶滅種は増加の一途をたどる



地球温暖化と生物多様性の関係

私たちが解決していかなければならないもう一つの大きな環境問題に地球温暖化がありますが、これと生物多様性の問題は、切り離して考えるべきではありません。というのも、地球温暖化による気候変動が生物多様性に深刻な影響を及ぼすことを世界の多くの科学者が指摘しているからです。これから先、地球の平均気温が0.8℃上昇するだけで、世界の生物種の最大30%が絶滅に向かうとの予測もあります。

日本でもすでに、地球温暖化による海水温度の上昇が原因と考えられるサンゴ礁の異変が、近海で報告されています。サンゴは褐虫藻という植物プランクトンと共生しています。ところが褐虫藻は高温に弱く、海水温度が上昇するとサンゴから抜け出していきます。その結果、サンゴの白化現象が起こり、白化が長く続くとサンゴは死滅してしまいます。サンゴの死滅は海洋のCO_2吸収力の低下につながり、それが原因で、さらに海水温度が上昇するという悪循環をもたらすことになるともいわれています。またそうした異変は、サンゴ礁に依存するさまざまな海の生物にも影響し、海の生態系が破壊されることが心配されます。

いま、私たちがしなければならないこと

地球温暖化と並ぶ重要な地球環境問題でありながら、生物多様性に対する私たちの認識や関心はこれまであまり高くありませんでした。けれども近年、生物種の絶滅、自然生態系の破壊などの事態が進み、自然の資源が急速に失われつつあることへの危機感が高まり、国内外で生物多様性を保全するためのさまざまな施策が進められています。こうした活動は今後さらに活発化していくものと思われます。

■国内での保全への動き ── 霞ヶ浦を蘇らせるアサザプロジェクト

日本で2番目に大きい湖・霞ヶ浦は、全周をコンクリートで護岸化したことで、水質汚染、生態系の破壊、漁業の衰退などの問題が起こりました。その霞ヶ浦の失われた自然を再生しようという試みに「アサザプロジェクト」があります。アサザなどの水生植物を、市民や子どもたちが家や学校で育てて霞ヶ浦に植え、水辺の植生を復元することから始まりました。現在では、湖周辺の学校、市民団体、漁協、企業、研究機関、行政などが連携して酒米作りや魚粉事業などのさまざまな事業を市民主導型で進め、参加者は延べ16万人を超えています。100年後にはトキが舞う霞ヶ浦の実現を目指しています。

満開のアサザ

小学生によるアサザ植え付け

写真提供／NPO法人アサザ基金 http://www.kasumigaura.net/asaza/

■海外での保全への動き（北アメリカ） ──キシミー川の復元プロジェクト

欧米諸国では先進的な自然再生事業が行われており、その中でも世界最大規模のものとして注目を集めるのが、アメリカ・フロリダ州のキシミー川の復元です。キシミー川は60年代に行われた治水事業によって、蛇行していた166キロの川が90キロの直線水路になり、氾濫原の湿地帯は牧草地に変わりましたが、湿地の生物が激減する結果を招きました。政府は自然生態系の破壊に危機感を抱く市民の声に押され、氾濫原内の私有地を買い上げ、直線化した部分を埋め、元の蛇行する川を復元して湿地帯を再生する大事業を進めています。

本来のキシミー川

直線化したキシミー川

再自然化が進められているキシミー川

写真提供／(財)日本生態系協会 エコシステムNo.58（2001年11月）

■日本における生物多様性 ── 生物多様性基本法

日本では平成7年（第一次）、平成14年（第二次）に続いて平成19年11月に第三次生物多様性国家戦略が策定されました。これらをベースに、平成20年5月28日「生物多様性基本法」が成立。6月6日に公布・施行されました。これまで日本には「鳥獣保護法」「種の保存法」「特定外来生物法」など生物多様性に関わる個別の法律はありましたが、野生生物と生息環境、生態系全体のつながりを含めて保全することを目的とした網羅的な法律という点で「生物多様性基本法」は初のものです。

さまざまな環境保護団体が作成に参加したその内容は、野生生物を広くカバーしていること、自然資源の持続可能な利用を定義したこと、予防的な取り組みを明記したこと、地方自治体に「生物多様性地域戦略」を定めるよう促していることなど多くの点で画期的とされています。また、国民の責務として生物多様性に配慮した物品を選ぶことが盛り込まれている点も、大きなポイントといえるでしょう。

生物多様性条約締約国会議と2010年目標

現在、日本では、哺乳類や魚類のおよそ2種に1種、植物のおよそ3種に1種が、絶滅が心配される状態にあります。第2、第3のトキになってしまうかも知れない生きものが、たくさんいます。

地球上の様々な生きものを守るため、生物多様性条約がつくられ、2002年に、日本を含む条約締約国は、「2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という目標（略称:2010年目標）を立てました。今年（2008年）ドイツで開催された締約国会議では、この目標達成に向けた各国の進捗状況が議論されました。そして、目標年の2010年に開かれる締約国会議を、日本（名古屋市）で開催することを決めました。

生物多様性は、私たち人類の生存基盤です。その生物多様性を、これ以上失ってしまったら、私たちの孫子（まごこ）の世代の生活はどうなってしまうのか。自然をこれ以上壊さず、これまで壊してきた自然を取り戻していくことが大変重要です。

（財）日本生態系協会 事務局長 関　健志
http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/

あなたが、今日からできること

生物多様性の問題を解決していくには、私たち一人ひとりが自然について正しい知識を持ち、意識を変え、できることから行動を起こしていくことが必要になります。まずは「生物多様性基本法」に明記されているように、消費者として厳しい目を持ち、生物多様性に配慮した商品を買うようにすることから始めてみてはいかがでしょうか。そしてそこから少しずつ行動を広げていくことで、社会はきっと変わっていきます。

■正しい自然観を身につけよう

日本人は緑や花がたくさんあり、生きものが多くいることが“自然”だと考えがちです。でも、その地に元から生息する在来種の動植物が暮らす生態系が維持されていなければ、それは自然とはいえません。例えば、外来種であるチューリップが植えられた庭や公園は目を楽しませてくれますが、自然とはいえないのです。また環境美化などのために川に魚や螢を放すイベントがよく行われていますが、気がつかずに非常によく似た外来種を放し、在来種の生息を圧迫したり、さらに在来種との交雑によって遺伝子汚染が起こるケースもあります。自然保護のための活動が自然破壊につながるという事態を招かないために、私たちには正しい自然観を身につけることが求められています。

■いま使っている商品がどこから来たかを考えてみる

私たちの身の回りの商品は自然の資源を原材料にしており、その中から生物多様性に配慮したものを意識的に選択することが消費者に求められています。近年、商品が生物多様性に配慮していることを消費者に伝える認証制度が広がりつつあります。中でも有名なものが、世界の森の審査を行う「森林管理協議会（FSC）」による認証制度です。この制度は、森林環境の破壊を防ぐことを目的としており、「健全な森か」「正しく管理されているか」「森で働く人々の生活が守られているか」などをチェックし、適切な森林管理がされている森には認証を与え、そこで生産された木材や木材製品、紙製品には“FSC”のロゴマークが付けられています。

また、世界自然保護基金（WWF）の支援を受ける「海洋管理協議会（MSC）」も漁業と水産物についての認証制度を設けており、資源・環境・規制を守った持続可能な漁業を認証し“MSC”のロゴマークを付けています。

こうした商品を積極的に購入し、消費者の意識を反映させていくことが大きな一歩につながります。

■どこかの誰かではなくまずあなたが行動しよう

生物多様性を守るために一人ひとりができる行動は、まだまだいろいろあります。例えば、高原や高山に自生する希少な山野草は採らず、自然の中で楽しむようにすることです。

また、外来種による生態系への影響が大きな問題となっていますが、外国産などのペットを飼う際にはその生態をきちんと理解し、飼えなくなったから野外に放すなどは論外です。

地球の自然とその生きものが直面する危機は、人間すべてにとっての問題であり、それを解決していくのは“誰か”ではなく“私”です。

日本音楽著作権協会（出）許諾第0808924-801号

■例えば地域の活動に参加する
―― 最初は小さな力でも、みんなで協力しあうことで大きな力が生まれる

生物多様性を守る運動は地域レベルでも広がりを見せています。地元の自然を守るさまざまな活動がNGOなどを中心に全国各地で行われています。そうしたプロジェクトに積極的に参加していくことも有効な手段です。さらに、野生の動植物の保護や生物多様性の保全が必要な土地を、会費や寄付金などによって買い上げたり、寄贈を受けたりすることで取得し、保全・管理・公開して、後世に残す市民運動「ナショナルトラスト運動」※に参加する方法もあります。個人の力は小さくても、それが集まることで大きな力が生まれ、地球への大きな働きかけになるのです。

※（社）日本ナショナル・トラスト協会 http://www.ntrust.or.jp

住友信託銀行企画部
社会活動統括室 相馬直子

まとめ 水、食べ物、緑、生き物たち・・・私たちはこれら自然の恵みを「当然」のことだと思いがちで、普段その尊さに敬意を払うことはなかなかありません。でも、私たちはこれら自然の恵みのうえに生活しており、生物多様性はそれを生み出す基盤となるものです。残念ながら、近年「生物多様性」の豊かさは私たち人間の影響で急速に損なわれつつあります。私たち一人ひとりがもう一度自然の価値を見直し、正しい知識を身に付けて、人間と自然が共生できる社会作りにつながるよう行動しなければならないと思います。簡単なことではないですが、日々の生活の中で心がけていきたいと思います。

住友信託銀行の社会貢献活動

常陰社長
インタビュー

地球の環境問題が深刻化し、解決すべき最優先の課題となった昨今、あらゆる企業が環境問題に積極的に関わることが求められています。住友信託銀行は以前から環境配慮活動に積極的に取り組むと同時に、多彩な社会貢献活動を行ってきました。その内容や意義、さらに住友信託銀行がこれから目指すことなどについて、平成20年1月より就任した社長の常陰 均にインタビューしました。

近年、地球温暖化、生物多様性の危機などの地球環境問題の解決に向けて企業が果たす役割が、ひときわクローズアップされるようになりました。住友信託銀行はこうした流れに先んじ、環境問題を社会貢献活動の重要なテーマにされているそうですね。

環境の悪化が止まらぬことへの危機感が高まる中、金融の機能を活用し、環境問題を解決していこうという考え方が広まっています。金融機関は経済社会を循環する“お金”を扱う存在ゆえ、商品や情報提供などのサービスを通して市場の、消費者の目が環境問題に向くようにし、環境に配慮した行動を取るよう促すことが期待されているのです。住友信託銀行は、環境問題をはじめ社会のいろいろな課題の解決に資する金融事業の創造を経営方針に掲げています。それは、信託銀行ならではの金融商品、サービスの開発を通して社会に貢献するということです。

私どもは平成15年に「国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）」に署名しました。これは国連組織「国連環境計画」と各国の金融機関の自主的な協定に基づいて生まれたもので、環境と持続可能性に配慮した望ましい金融機関のありかたを追求し、普及・促進していくことを目的としています。

環境問題解決に向けた金融機関のあり方。

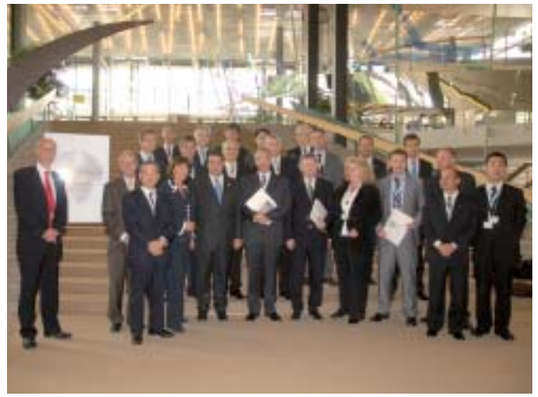
信託銀行は金融機関の中でもとりわけ多様な機能を持っています。それらをうまく使い、いろいろと組み合わせることで個々の社会的課題の解決に向けた個別のソリューションを作り、提供することが可能だと私どもは考えています。環境問題においては、これまでなかなか進まなかった部分にお金を流す仕組みを作り、それを活性化させ、さまざまな関係者の協力を得て問題を解決していくことを目指しています。また、自社の環境配慮対策として、地球環境への負荷を軽減するための国際規格である環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得すべく、全社をあげて取り組んでいます。

地球温暖化と並ぶ環境問題として、生物多様性の問題が注目され始めました。生物多様性問題については、企業としてどのように取り組まれるのでしょうか？

平成20年5月、ドイツのボンで生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）が開催されましたが、そこでのドイツ政府主導による「ビジネスと生物多様性（B&B）イニシアティブ」に私どもは参加し、「リーダーシップ宣言」に署名しました。このイニシアティブは参加企業に対して生物多様性問題に積極的に取り組むことを求めるもので、生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用を両立させた本業を推進することに加え、年次報告書で活動内容を公表することや、取引先企業への働きかけを進めることなどが期待されています。

企業ができることを考える。ビジネスと生物多様性。

地球環境問題ではこれまで地球温暖化が先行して取り上げられてきましたが、ここにきて生物多様性の危機が顕在化し、状況は加速度的に悪化しています。また、生物多様性の崩壊は経済、社会に有益な資源が失われることにつながり、そこにはさまざまな経済問題が含まれています。こうした認識から、生物多様性問題は地球温暖化と並ぶ地球環境問題の最重要テーマであり、企業として積極的に取り組むべきと考えこのリーダーシップ宣言の署名に至りました。



住友信託銀行は、平成20年5月にドイツのボンで開催された生物多様性条約第9回締約国会議（COP9）における「ビジネスと生物多様性シニシアティブ」に参加して「リーダーシップ宣言」に署名しました。同イニシアティブには全34社（日本企業は9社）が参加しています。5月29日に参加企業は閣僚級会合に招待され、当社からは村上仁志特別顧問（前列左端）が出席しました。

私どもはこうした環境問題の解決に向けて、“エコ・トラステューション”というコンセプトに基づくさまざまな事業を推進しています。“エコ・トラステューション”とは環境問題（エコロジー）を信託（トラスト）業務を通じ、解決する（ソリューション）という意味です。この事業では「地球温暖化への対応」「廃棄物問題への対応」「生物多様性の保全」「土壌汚染問題への対応」などをテーマに、個人向け・法人向けの商品やサービスを取り扱っていますが、その中でも優先的なテーマと考えているのが地球温暖化への対応と生物多様性の保全ということになります。

“エコ・トラステューション”とは、信託銀行ならではの利点を生かした金融事業を通して行う環境配慮活動なのですね。その具体的な内容について、いくつか説明していただけますか？

地球温暖化防止のために、CO_2をほとんど排出しない自然エネルギー（再生可能エネルギー）の利用拡大が

住友信託銀行の社会貢献活動

常陰社長
インタビュー

常陰　均（つねかげ・ひとし）
昭和52年住友信託銀行株式会社入社。証券業務部長、執行役員企画部長、取締役兼常務執行役員などを経て平成20年1月から代表取締役社長。兵庫県出身。54歳。

支店ごとにも多彩な社会貢献活動に取り組まれているそうですね。社会貢献活動における支店の位置付けと今後の抱負などをお聞かせください。

地域に根ざした社会貢献活動を展開。

私どもはお客様にとって“顔の見える銀行”であることを目指しています。信託銀行の支店活動ではお客様との深いつながりが基本ですが、同時に地域社会とのつながりも非常に重要です。それゆえ支店ごとの社会貢献活動は支店の性質や地域の特性を踏まえたうえで行うべきだと考えています。活動の内容は多岐にわたりますが、いずれも一過性の活動として行うのではなく、地域に根ざした活動になるよう職員一人ひとりが自覚を持って取り組むことを求めています。

さらに支店は地域社会における情報の発信基地であるべきだと考えており、自社の商品やサービスにとどまらず、お客様が求める情報や環境問題などに関する有益な情報を幅広く発信していきたいと思います。私どもは常にお客様とともにある銀行でありたいと願っており、その思いを社会貢献活動のキーワードにしている“With You”という言葉に込めています。今後とも、人・社会・地球の利益に貢献する企業たるべく、With You活動に取り組んでいきたいと考えています。

また当社は、環境問題に関する映像を専門に扱うインターネットメディア「グリーンTVジャパン」のスポンサーを務めています。環境問題の情報は氾濫しているようで、実際は、真に質の高い情報の入手は必ずしも容易ではありません。「グリーンTV」のコンテンツは非常にクオリティが高いので、それらを広く提供するお手伝いをすることで消費者の環境問題に対する“気づき”効果を高めることができるのではないかと考えたのです。

さらに、教育助成を目的とする社会貢献活動として有名な「ベルマーク運動」に関わるすべての入出金業務も手がけています。ベルマーク運動は全国津々浦々にしっかりと根づいた社会貢献活動であり、それをこれまで25年間にわたり裏方として支えてきたことは非常に意義があると自負しております。今後も口座管理を中心とする一連の業務を続けていくのに加え、例えば支店ごとにベルマークを集めて地域の学校に提供するなど、より密接な協力を行い、ベルマーク運動を通じて地域社会との接点をさらに深めていきたいと考えています。

自然エネルギーの中でも特に注目される太陽光発電は世界で需要が拡大。「ソーラーファイナンス・プロジェクト」で、家庭での太陽光発電からメガソーラー発電と呼ばれる大プロジェクトまでを扱います。

地球環境に配慮した商品開発と発売。

住友信託銀行は、“企業の社会的責任（CSR）”の活動を積極的に推進する中で、さまざまな社会貢献活動を行っていますね。

私どもは“企業の社会的責任（CSR）”を経営の柱の一つとし、平成15年よりCSR活動を統括・推進するセクション「社会活動統括室」を設け、その一環として全社をあげてさまざまな社会貢献活動に取り組んできました。信託銀行は業務の社会性が特に高く、公共的な使命や社会的責任を積極的に果たすべき存在です。社会貢献活動を通してお客様の信頼を得ることができると考えており、スローガンとしてCSRを語るのではなく、何に貢献するのか、どんな問題を解決するのかといった目標を具体的に定め、チームを作って対応する実践的なCSRを打ち出しています。

全社的な活動では、乳がんの早期発見、診断・治療の重要性を訴える「ピンクリボン運動」への協賛、妻から夫へ、夫から妻への感謝の気持ちを1枚の葉書につづってもらうオリジナル企画「60歳のラブレター」「日本の次世代リーダー養成塾」の協賛とクラス担任の派遣などがあげられます。

生物多様性の保全に対応する事業に関しては、着手したばかりであり、これから商品化・サービス化を具体的に進めていきます。例えば投資信託の1種類として生物多様性に配慮している企業の株式に投資する「生物多様性ファンド」の開発を考えています。また、建築物に付随する“緑の質”を不動産評価に組み込み、“緑の質”の高い建物の建設を促進するシステム作りなども推進中です。“緑の質”とは、建物のまわりの緑地の面積や樹種（在来種であるほど良い）などから判断されるものです。

求められていますが、私どもは風力発電や廃木材などの生物資源を原料として用いるバイオマスエタノールの生産事業への融資を行っています。また、風力と並ぶ自然エネルギーである太陽光発電の可能性に特に注目しており、「ソーラーファイナンス・プロジェクト」を立ち上げました。これは社内のさまざまな事業部門から人を集めそれぞれの知見を持ち寄り、家庭でのソーラー発電から大規模な太陽光発電施設の建設に対する融資まで幅広く対応し、プロジェクトを推進していくことを目指しています。他には、温室効果ガスの排出権の小口化や買主と売主との間で受渡しを円滑にする信託商品なども手がけています。

信託銀行は不動産を中核業務の一つとして取り扱っていることから、建築物が環境問題に与える影響を重要なテーマとしてとらえています。そこで、環境に配慮した住居の購入を支援する独自の「環境配慮型住宅ローン」を開発し、ラインナップを充実させてきました。さらに「建築物の環境配慮評価事業」の推進にも力を入れています。これは、環境に配慮した建築物の価値の向上につながる仕組みを市場の枠組みの中で作り、その建築を促進しようというものです。

また、私どもはSRI（社会的責任投資）と呼ばれる資産運用手法を5年前に開発し、優れたパフォーマンスを維持しています。これは環境や社会の問題に積極的に取り組む企業の株式に投資するというものです。

現在商品化に取り組んでいるものの一つには、テナントビルの省エネ推進スキームがあります。テナントビルはオーナーと店子の利害関係が対立しがちで、これまで省エネがなかなか進んできませんでした。この問題を解決すべく、オーナーとテナントが共同で省エネを進める仕組みの開発を推進しています。

CLOSE UP
クローズアップ
支店活動

With You

あなたとともに。
社会とともに。
地球とともに。
With Youは、
私たちの気持ちです。

社会的責任を積極的に果たすことで、お客様から、さらに社会から信頼される存在でありたい。住友信託銀行はその思いを“With You（あなたとともに）”という言葉に込めて、社会貢献につながるさまざまな活動を実践しています。
“With You”の“You”はお客様一人ひとりであり、同時に人を取り巻く“社会”であり、人と社会の営みを育み、包み込んでいる“地球”と自然環境でもあります。私たちはこの「人・社会・地球」の3つに対する感謝の気持ちを常に忘れず活動しています。ここでは、各支店それぞれが“With You”の思いを込めて行った活動をご紹介します。

メディアを使った環境教育を松山市立番町小学校で実施

環境教室

地球の環境問題が深刻化する中、次世代を担う子供たちが環境について考え、行動できるようにする環境教育の必要性が高まってきています。松山支店はそこに着目し、社会貢献活動の一つとして近隣の小学校で環境教室を開きました。

四国最大の人口を有し、美しい自然に恵まれた愛媛県・松山市は、松山城を中心に発展してきた旧城下町です。夏目漱石の「坊ちゃん」や司馬遼太郎の「坂の上の雲」ゆかりの町として、また日本を代表する数々の俳人を輩出した文学の町としても知られています。市の中心部にある松山支店は四国唯一の支店であり、昭和30年に開業しました。

【地域に密着した社会貢献活動】

松山支店のすぐ近くには、明治20年に創立され、正岡子規、高浜虚子などの俳人から政治家や学者まで多彩な著名人を卒業生に持つ松山市立番町小学校があります。松山支店はこれまで社会貢献活動の一環として、通学路の早朝見守りなどを行ってきました。また昨年は同校の生徒を招待して銀行見学会を開催し、職員がお金や銀行の役割を解説する金融教育を実施しています。こうしたつながりと「松山市が環境都市として世界的に注目を集めるドイツのフライブルグ市と姉妹都市提携していることもあり、“環境”をテーマにした社会貢献活動を地域に密着した支店ならではの形で行いたい」という松山支店の考えが結びつき、6年生を対象にした環境教室を平成20年6月26日に開きました。

【環境メディア「グリーンTVジャパン」と協力】

この環境教室は、住友信託銀行がスポンサーを務める「グリーンTVジャパン」※の協力を得て、2時間の特別授業という形で実施されました。グリーンTVは“環境映像専門のグローバルメディア”を掲げるインターネット放送局で、さまざまな環境問題をテーマとする国内外の映像コンテンツを無料で配信しています。平成18年にイギリスで誕生し、平成19年から日本版がスタートしました。グリーンTVの番組の取材・映像制作を担当する環境ジャーナリスト、丹羽順子さんが授業の講師を務め、学校のパソコンルームで生徒がグリーンTVの映像を見ながら環境問題について学びました。

※ http://www.japangreen.tv

インターネットを使い、環境問題について考える

授業のテーマは「インターネットを使って環境問題を知ろう！発信しよう！」。さらに松山にちなみ、

（ま）→毎（ま）日できる環境アクションを
（つ）→インターネットを使（つ）って追究し
（や）→クラスメイトとの約（や）束を通して
（ま）→お互いに学（ま）び合う

という“まつやまアクション”が目標に掲げられました。

【ユニークな参加型の授業】

最初に講師の丹羽さんが「世界中で起こっている環境問題の責任は人間にあり、未来にも影響します。だからみんなが自発的に考え、行動し、意見を発信していかないとダメ。問題の解決に結びつく答えは、みんなの中にあります。柔軟な頭と想像力を働かせて授業に参加して下さい」と語りました。そして「YES／NOゲーム」がスタート。「地球温暖化を知っている？」など環境問題に関する質問を行い、生徒が“YES”か“NO”かを選択します。ちなみに「今の日本のように便利で豊かな生活は50年後も続けられる？」という質問には全員が“NO”。理由として「地球がボロボロになっている」などの意見が出ました。

教室を「YES」エリアと「NO」エリアに分けて、環境問題について考える生徒達

【世界の環境問題を映像から学ぶ】

続いて生徒はグリーンTVの映像を視聴しました。「インターネットは学習のヒントになる多彩な映像やデータをいつでも見ることができ、自分の意見を発信できる優れたツールです」と丹羽さん。温暖化する地球のシミュレーション映像、温暖化による海面水位の上昇で沈みゆくパプアニューギニア・カートレット諸島の番組を見ました。塩害で作物が育たず、食事は1日1回という島民の暮らしを知った生徒の一人は「環境のことを考えず、ラクをしている人間のしわ寄せが南の島に来ている」と感想を語りました。また、英国の男性がゴミ箱に捨てられた食べ物や生活用品だけで生活する姿を追ったドキュメンタリーにも興味をそそられたようです。

【“もったいない”を大切に】

丹羽さんは「食べ物、エネルギーなど私たちの生活に必要なものはすべて自然からもらっていますが、人間はそれを無駄使いしています。日本には“もったいない”という言葉があるけれど、その気持ちを持って無駄をなくし、モノを大切にして暮らすことが地球温暖化の防止につながります」と語りました。

さらに、平成4年のブラジルの地球サミットで12歳の若さでスピーチを行った環境活動家、セヴァン・スズキが洞爺湖サミットを前に発信したメッセージ映像を視聴しました。その後で、地球の環境を守るために自分ができることを書き、友人の前で実行を約束する「宣言シート」を生徒全員が作り、内容を発表しました。

ぼくが、私が、今日から地球のためにできることを宣言

「環境を守るためにアイディアを活かして生活するのは楽しいこと。私は着なくなった服を友人と交換したり、生ゴミを堆肥にして野菜を作っています。自分が楽しんでできることや得意分野を生かせるような宣言を作りましょう」と丹羽さんはアドバイスしました。

生徒たちからは「小さくなった服を知り合いの子にあげる」「朝は早く起きて、夜は早く寝る」「鉛筆や消しゴム、ノートは最後まで使う」「カレンダーなどの裏紙を使う」「将来、環境を良くすることでポイントがたまる仕組みを作りたい」などの宣言が生まれました。

子供たちは予想以上に環境問題について知っていて、自分の問題として真剣に考えていたのが印象的でした。社会貢献活動は継続していくことに意義があるので、今回の環境教室に関しても何らかの形で“その後”をフォローしていければいいと思っています。

野口謙吾 松山支店長

【みんなの力が世界を変える】

丹羽さんは「この宣言シートは自分、クラスメート、そして地球との大切な約束です。ぜひ今日から実行して下さい」と語り、「環境問題は地球や自然についてきちんと知ることから始まります。今日のようにインターネットを使えば便利でおもしろい。次に、知識を元に自分の問題として考え、行動に移し、それを世界に向けて発信する。そうすれば世界はもっと豊かで、安心して暮らせる場所になります。世界を変えていくのはみんなです」と結びました。

授業を終えた生徒たちは「インターネットの映像を見て、自分たちがいかに環境をダメにしているかが分かりショックだった」「ゴミだけで生活する番組がおもしろかった。自分も使えるものを捨てたことがあるので気をつけたい」「映像は現実を伝えるのに効果的。自分で行動し、未来にきれいな自然を残したい」などと感想を述べ、今日のような授業について「また受けたい」と全員が答えてくれました。

環境ジャーナリスト
丹羽順子（にわ じゅんこ）さん

次は“知る”から“発信する”へ

今回の授業は、環境問題について大人の意見や考えを鵜呑みにするのでなく、子供ならではの発想を活かして考え、行動につなげることが目的でした。多彩な“宣言シート”を見るとその点はうまくいったかなと思います。今日はグリーンTVの映像を見て学ぶのが中心でしたが、この次は子供たちにインターネットから情報を受け取るだけでなく、コメントを書き込む、自分たちで取材・記録した映像を配信するといったことにもチャレンジしてもらい、“知る”“行動する”“発信する”をつなげた授業をしてみたいですね。

防府市内の高校生600人に「夢」を語る

篠田傳氏講演会

住友信託銀行が行った社会貢献活動の一つにプラズマテレビの寄贈プロジェクトがあります。山口防府支店は、プラズマディスプレイ開発の夢を追い、富士通で世界初のフルカラープラズマディスプレイの製品化に成功した篠田 傳氏を講師に招き、市内の高校生を対象にした講演会を開催しました。

講演会は平成20年2月14日、防府市地域交流センター「アスピラート」で行われ、防府高等学校、防府商業高等学校、誠英高等学校の生徒600名が参加。山口県の出身で、現在は篠田プラズマ株式会社会長・広島大学大学院教授の篠田 傳氏が「夢は叶う!道は開ける!」と題した講演を通して、夢を追いかけて努力することの大切さを説きました。

泉 雅央 山口防府支店長

講演の前に、篠田氏を取り上げたNHKのテレビ番組『プロジェクトX』の「プラズマテレビ愛の文字から始まった」を上映。続いて篠田氏に、自身の学生時代、研究打ち切りの危機、長期入院などの苦労や挫折を乗り越えてプラズマディスプレイを開発するまでの軌跡、さらに現在、超大型・超軽量で曲げることができる新型ディスプレイ“プラズマチューブアレイ(PTA)”の開発・製造のためにベンチャー企業を起こして夢を追い続けていることなどを語っていただきました。

【ナンバーワンでなくオンリーワンになろう】

篠田氏は生徒に、ロマン、夢、愛の3つを持って生きること、夢は叶うと信じて行動すれば必ず道は開けること、夢を叶えるには目の前のことに一所懸命に取り組み、一つひとつのステップを積み上げていくこと、夢を同じくする仲間を持つことなどの大切さを語り、さらに失敗の中に成功のヒントがあるのだから失敗を怖れず、人と競う“ナンバーワン”ではなく、人と違うことに挑戦する“オンリーワン”を目指してほしいと激励しました。

泉 雅央支店長は「感動がない、創造性がないなどと言われる今どきの高校生に、数々の障害を乗り越えて夢を追い、実現した人の経験を聞かせたらどんな反応があるだろうと考えての講演会でした。彼らが真剣に聞き入る姿を目にし、講演を聞けなかった生徒から『来年はいつ来てもらえるのか』という声もあったと聞いてうれしく思っています」と語りました。

題字は、篠田先生が講演記念に各校に贈られた色紙より

篠田プラズマ株式会社 代表取締役会長
広島大学大学院先端物質科学研究科 教授
株式会社次世代PDP開発センター 集中研究所長

1948年山口県生まれ。広島大学大学院工学研究科修士課程修了後、富士通株式会社入社。以後一貫してプラズマディスプレイパネル(PDP)研究開発に従事。1983年カラーPDPの基本構造を発明。1992年世界初21型フルカラーPDPを開発。2000年東北大学電気通信工学博士課程修了、工学博士。2003年株式会社次世代PDP開発センター集中研究所長。2003年～2006年東京大学客員教授。2005年篠田プラズマ株式会社設立。2006年広島大学大学院先端物質科学研究科教授。

1998年より、プラズマチューブアレイ(PTA)技術の開発を開始し、現在、篠田プラズマ株式会社においてこの技術の実用化、事業化に取り組んでいる。

講演と体験で、防災を身近に感じた一日

さかい防災フェア

阪神・淡路大震災から13年。その後も新潟県中越地震をはじめとする震災が各地で起き、マグニチュード8クラスの東南海・南海地震が今世紀前半に発生する可能性も高いとされています。地震への備えが課題となっている中、堺支店は市民の防災意識を高めることを目的とした防災活動を実施しました。

「さかい防災フェア」は平成20年3月29日、堺区のサンスクエア堺と東雲公園で開催され、堺市、堺市上下水道局、堺市高石市消防組合が後援。大阪府危機管理室も出展する大規模なイベントになりました。第1部では、滋賀県立大学環境科学部教授・柴田いずみ氏による「まちが崩壊する前に」と題した講演が行われ、柴田氏は阪神・淡路大震災では建物の崩壊による死者が全体の83.9%を占めたというデータをあげて耐震補強工事の重要性を指摘。自らが携わる滋賀県・彦根市の古い町屋の耐震補強工事の事例などを紹介し、地域が一体となって震災対策に取り組むことの大切さを説きました。

【大人も子供も熱心に参加】

第2部では東雲公園を会場にして「体験＆実践で防災を学ぼう!」をテーマにしたイベントを実施。ロープ結索、簡易担架の作り方、公共の場所に設置されている救命器具AEDの使用法、消火器訓練、応急給水などを大勢の参加者に体験していただきました。熱心な大人に加え、今回は子供の参加も多く、子供用の消防服を着せてもらって喜んだり、起震車での地震体験に興奮する姿も見られました。参加者からは「とても勉強になった」という声が数多く寄せられ、堺市や消防本部から来年度以降も継続的に実施してほしいという要望が寄せられるほどの大好評を博しました。

支店スタッフ全員での取り組み

開催に当たり、支店職員が業務終了後に消防署に出向き、消火訓練やロープ結索の講習を受けるなど支店一丸となって準備を進めました。集客の方法についてもいろいろと話し合い、新聞の折り込みなどに加え、会場近くの小学校の子供たちにチラシを配ったりしました。その甲斐あって、当日は大勢の方にご参加いただき、また職員一人ひとりの社会貢献活動に対する理解が深まる有意義な1日になりました。こうした活動は継続することに意味があり、地域の方々への貢献につながると思うので、防災フェアは堺支店の社会貢献活動として継続的に行っていきたいと思っています。

堺支店 淺田知子 副主任

支店活動紹介

With You

職場見学会とミニコンサートの開催

本店営業部

平成19年1月に職場見学会とミニコンサートを開催しました。職場見学会では地元の中高生と保護者約30名が、製作当時（昭和37年）東洋一の大きさであった貸金庫の扉開閉や模擬紙幣を使った札勘（紙幣の枚数の勘定）を体験しました。ロビーで開かれたミニコンサートでは楽団員が弦楽四重奏で「美しき青きドナウ」「星に願いを」など8曲を演奏し、住友ビルで働く会社員も加わった約200名が美しい音色に聴き入りました。

●ピンクリボン運動への参加　●「美しい大阪を作る100万本のバラの会」事業募金活動　●寄付を目的とした使用済み切手・プリペイドカード、プルタブの回収活動

大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号　電話06-6220-2121

大阪みどりのトラスト協会の「緑の募金」への参加

梅田支店

平成19年11月に緑地公園に集まり、ドングリ拾いを行いました。16,800個のドングリを拾い、（財）大阪みどりのトラスト協会の「木になる夢銀行」へ預けました。預けたドングリを苗木に交換できる制度を利用して、一部を苗木で受け取り食堂で育てています。また、クリスマスパーティーでオークションを開催し、その売上金6万円を同協会へ寄付いたしました。それに対して、同協会から緑化促進事業交付金を27,200円いただき、ロビーの観葉植物を購入しました。

●豊かな老後支援セミナー「成年後見・任意後見について」開催　●トイレのペーパータオル、食堂の紙コップ撤去　●マイ箸・エコバッグ持参運動

大阪府大阪市北区角田町8番47号　電話06-6315-1151

西宮市「わがまちクリーン大作戦」への参加

西宮コンサルティングオフィス

西宮市では、平成15年に「環境学習都市宣言」をし、地域・職場などさまざまな場所で、市民や事業者の交流を深め、環境学習活動を支えるしくみをつくっています。
平成19年12月には、「西宮市のまちを美しくする月間：わがまちクリーン大作戦」と題した清掃活動が市内で一斉に実施され、さまざまな団体が参加するなか、当店も店舗周辺の清掃活動を行いました。参加者の環境に対する意識の改善につながることから、今後も継続していく方針です。

●ピンクリボン　スマイルウオークへの参加　●ベネッセスタイルケアとのセカンドライフ応援セミナーの共催

兵庫県西宮市高松町3番33号　電話0798-66-3122

認知症サポーター100万人キャラバンへの参加

難波支店

「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環である「認知症サポーター100万人キャラバン」に参加しました。平成20年2月に講師をお招きし、支店ロビーにおいて支店全員が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症に対する理解を深めました。また、平成20年3月、サービス介助士資格を有する職員による勉強会を開催いたしました。

●店舗周辺の清掃活動　●ピンクリボン　スマイルウオークへの参加とロビー展の開催　●車いすの取得と寄付を目的としたアルミ缶収集　●寄付を目的とした使用済み切手とプリペイドカードの収集

大阪府大阪市中央区難波 5丁目1番60号　電話06-6633-6336

地域密着型ロビー展の開催

阿倍野橋支店

阿倍野橋支店では支店全員一丸となって「地域に密着した、お客様に愛され続けるお店づくり」に取り組んでおります。昨年度は地域をテーマとしたロビー展の開催に力を入れ「阿倍野橋・・・写真で振り返る古き良き時代」「発見!阿倍野お食事処ご紹介」等のロビー展を開催しました。近隣商店街の方にも喜んでいただき、また、お客様とも地域の移り変わりの様子やお食事処を話題に親交を深めることができました。

●厚生労働省推奨の「認知症サポーター100万人キャラバン」への参加　●有名服飾小売企業のリサイクル活動への参加　●大和川清掃ボランティア活動への参加

大阪府大阪市阿倍野区阿部野筋2丁目5番6号　電話06-6632-2121

金剛山森林保全活動への参加

堺支店

大阪府内で最も高い山として知られている金剛山で、のこぎりを片手に間伐作業を行いました。山の斜面での間伐は全員が初めての体験で、想像以上に過酷な作業でした。今回の活動で森林の健全な育成と環境保全は都市市民であるわたしたちの責務だということを強く認識しました。

●こども110番活動　●「企業の森（しんたくんの森）」植栽活動への参加　●南海電鉄主催の「南海ハイキング」への協賛　●支店周辺の清掃活動　●千羽鶴の作製、広島原爆記念館への寄贈　●エコリサイクルロビー展の開催　●さかい防災フェアの開催

大阪府堺市堺区三国ヶ丘御幸通59番地の2　電話072-233-1761

「未来に残したい美しい海」セミナーの開催

豊中支店

沖縄のサンゴ礁の白化問題を取り上げた「未来に残したい美しい海」と題したセミナーと海の写真展を開催しました。洞爺湖サミットが開催され、地球温暖化への関心も高まった平成20年は国際サンゴ礁年であり、セミナーも写真展も大盛況でした。なかにはこの写真展を楽しみにご来店されたお客様もおられました。豊中市がサンゴ礁の豊かな沖縄市と兄弟都市であることを知っていただくよい機会となりました。

●近隣地域の書道・絵画教室の作品をロビーに展示　●発展途上国支援（使用済みプリペイドカード、切手の収集）　●豊中まつりへの協賛と事前清掃活動　●公益社・地域老人会でのセミナーの開催　●豊中市立図書館へ「60歳のラブレター」を寄贈　●ピンクリボン運動への参加

大阪府豊中市本町1丁目1番1号　電話06-6841-1110

ドナルド・マクドナルド・ハウス「おおさか・すいたハウス」への支援

千里中央支店

平成19年5月と11月を「ドナルド・マクドナルド月間」として、地域に根ざした社会貢献活動の一環としてロビーにポスターなどを設置し、同財団の活動内容を紹介しました。お客様にはロビーでお待ちの間に鶴を折っていただくようお願いしたところ、多くのお客様が協力してくださり4000羽の千羽鶴を地元の「おおさか・すいたハウス」に寄贈することができました。同ハウスの皆様には大変喜んでいただき、同財団のホームページでも紹介されました。

●ユニセフの活動を紹介したパネル展の開催　●投資教育や医療などについてのセミナーの開催（毎月）

大阪府豊中市新千里東町1丁目1番3号　電話06-6873-2121

盲導犬ロビー展の開催

茨木支店

「盲導犬が巣立つまで」のパネル、盲導犬ショップで販売されているグッズを展示したロビー展を開催しました。職員全員で、購入代金の一部が盲導犬の支援金にあてられるグッズを購入し、開催期間中は盲導犬支援活動を広く知っていただけるよう、揃いのTシャツとバンダナでお客様をお迎えしました。職員全員が盲導犬について身近に考える良いきっかけとなりました。今後も継続的に盲導犬支援活動を行っていく予定です。

●発展途上国支援に協力（使用済みカード、切手の収集）　●ベルマーク収集活動　●回収アルミ缶、バザー品を知的障害者通所授産施設へ提供　●ピンクリボン運動への参加　●「茨木市主催英語スピーチ大会」協賛

大阪府茨木市双葉町2番30号　電話072-632-3711

大和川クリーン作戦活動への参加

八尾支店

平成19年3月大阪府南部を代表する河川である大和川の清掃活動に、職員とその家族約20名が参加しました。当日は、参加者全員が軍手にゴミ袋を持ち、缶・ビニール類など大量のゴミを収集しました。また、作業終了後には、参加された八尾市をはじめ周辺地域のたくさんの皆様とおせんざいや豚汁をいただき親交も深まりました。清掃活動の模様は、地域紙にも取り上げられました。

●ロビーにてニッポンバラタナゴを飼育し、生物保護と環境保全をPR　●プルトップを収集し、社会福祉団体へ寄贈　●ピンクリボン運動への参加　●「60歳のラブレター」ロビー展　●贈答品にエコ商品の導入

大阪府八尾市東本町3丁目6番8号　電話072-992-6111

淀川清掃活動への参加

枚方支店

枚方ロータリークラブ・枚方ローターアクトクラブと協働で、琵琶湖・淀川水系の水質改善活動として淀川河川流域の清掃活動（淀川クリーンハイク）を行いました。職員とその家族計25名が参加し、缶・ペットボトル・ビニール製品・放置自転車などの粗大ゴミまで大量のゴミ（計54kg）を収集しました。貴重な恵みである淀川を守り、安心して生活できる環境を次世代へ残すことができるようこの活動を今後も継続していく予定です。

●「60歳のラブレター」の寄贈　●枚方市職員研修受け入れ　●ピンクリボン運動への参加　●枚方市立幼稚園児絵画展示　●地元地域サークルへの会議室の無料貸し出し　●職員向けインフルエンザ予防接種

大阪府枚方市岡東町13番20号　電話072-846-2131

紙芝居の寄贈と「読み聞かせ会」の実施

高槻支店

高槻市立子育て総合支援センター「カンガルーの森」の行事に積極的に参加しています。平成19年度は紙芝居、大型絵本を寄贈し、その紙芝居を使用した「読み聞かせ会」を高槻市のボランティアの皆様と一緒に開催しました。子供達の笑顔を見ることで社会貢献を実感することができる良い経験となりました。今後も高槻市の「子供たちの笑顔があふれるまちづくり」に継続的に協力していきます。

●「環境美化推進デー」への参加　●子育て支援センターへぞうきんの寄付　●市民の花時計 植え替えの協賛　●「子育てパパ応援フォーラム」への参加

大阪府高槻市紺屋町5番20号　電話072-684-0001

「しんたくんの森」育成活動を通した環境問題への取り組み

和歌山支店

平成19年度から10年間の計画で、和歌山県が推進する森林保全活動「企業の森」事業に参画しています。事業地のうち当社のスペースを「しんたくんの森」と名付けました。地元の森林組合の協力を得て開催した植樹イベントには、職員やその家族、地元関係者も含め約100名が参加して、一人ひとりが自然環境保護への思いを込め、苗木を植えていきました。今後、年に1回下草刈り活動を実施し、「しんたくんの森」を育成することにより環境問題に少しでも貢献できればと考えています。

●「しんたくんの森」ロビー展の開催　●「ピンクリボン運動in和歌山」へポケットティッシュ寄贈とロビー展の開催　●「南海大地震に備えて」防災月間ロビー展の開催　●「インフルエンザについて」ロビー展の開催

和歌山県和歌山市東蔵前丁3番地6　電話073-431-9391

アフリカに木を植えよう!! 活動への支援

奈良西大寺支店

使用済み切手やプリペイドカードを回収し、環境保全団体「ポレポレクラブ」に送付するとタンザニアに木を植えることができます。環境保全に取り組むこの活動に参加するためお客様に対しても活動の趣旨をお伝えし、店内に回収ボックスを設置しました。お客様から「今度持ってくるわね」などの温かいお声がけもあり、3ヵ月間でプリペイドカード170枚・切手150g(植林約10本分)が集まりました。お客様からも「今後も回収するならまた持ってくるわ」といった嬉しいお言葉をいただいているので一時的な活動にとどまらず継続的に活動していく予定です。

●「健康促進」をテーマに高齢者向けの運動をロビー展で紹介。簡単な健康チェックリストを展示

奈良県奈良市西大寺東町2丁目1番50号　電話0742-34-1171

「社会的責任投資」セミナーの開催

京都支店

企業の社会的責任に着目した投資手法である社会的責任投資の資産運用セミナーを開催いたしました。
投資を通じてCSRの重要性をお客様にお伝えしたいという考えから開催をいたしましたが、株式相場が不安定な環境にもかかわらず、多くのお客様にご参加をいただき、このテーマに対する皆様の関心の高さを感じました。

●鴨川クリーンアップ（清掃）活動　●CSR環境ロビー展　●京都市の進めるCSR活動「水源の森作り」環境説明会への参加　●店舗周辺の美化活動　●五山送り火前の大文字清掃活動

京都府京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町612番地　電話075-212-6820

地域の若者を応援しよう！ 新進気鋭画家・浦 大典氏 個展の開催

川西支店

地元出身で学生ながら世界を舞台に活躍中の新鋭画家・浦 大典氏を地域に紹介、応援し、地域貢献を図ろうと当店ロビーにて個展を開催しました。店内を数々の作品で飾ったことで「銀行の取組みとしては珍しい」「銀行でありながら美術館のよう」とお客様からも大変好評でした。また、地元出身の若者を応援する斬新な地域貢献活動であることが評価され、地元テレビや新聞取材も多数受けました。

●落語家・桂　三若氏による「笑いで健康!落語セミナー」の開催（同落語家による職員向けの落語セミナーも開催）　●ピンクリボン スマイルウオークへの参加とロビー展の開催

兵庫県川西市中央町7番18号 ラ・ラ・グランデビル　電話072-757-2361

真夏のハッピーふれあいコンサートの開催 ～障がい者作業所支援と交流～

姫路支店

平成19年8月姫路キャスパホールにて障がい者作業所支援のためのコンサートを実施しました（3回目）。地元コーラスグループの歌やシャンソン、当社職員による「よさこい踊り」も披露し、「どっこいしょ!」の掛け声のもと会場は大いに盛り上がりました。また、作業所の製品も多くの皆様に購入いただきました。最後には会場全員で『TOMORROW』を熱唱! 職員は手話で歌い、聴覚障がい者の方やご来場の皆様に楽しんでいただきました。

●ロビー展（作業所の製品、ピンクリボン運動）　●牛乳パック回収、カードや年賀状として活用　●文化教室（フラワーアレンジメント、陶芸、書道）　●車椅子バスケットボール大会のボランティア　●姫路城下町マラソン大会への参加

兵庫県姫路市駅前町252番地　電話079-289-2011

夕張応援ロビー展の開催

東京営業部

当部は丸の内という立地を活かし、各支店が属する自治体を支援する活動を展開しており、札幌支店との協働で夕張市の観光PRポスターを展示しました。全国的にも関心の高い夕張市の財政再建への取組みを紹介し、同市の観光名所や名産をアピールすることで観光客誘致活動をサポートしました。また、能登半島地震からの復興を目指す石川県の観光PRのロビー展も金沢支店との協働で開催しました。

●障がい者施設が作るクッキーを贈答品として採用　●盲導犬協会が発行する機関誌をロビーに設置

東京都千代田区丸の内1丁目4番4号　電話 03-3286-1111
※平成20年10月14日、東京都中央区八重洲2丁目3番1号に移転

「コーヒーと健康について」セミナーの開催

神戸支店

平成20年2月、UCC上島珈琲株式会社コーヒー鑑定士中平氏を講師にお招きし、コーヒーと健康との関わりの講義と、コーヒーの淹れ方の実演からなるセミナーを開催し、ご夫婦・ご友人などが連れ立って20名のお客様に参加いただきました。参加者の関心は高く、質問が相次ぎ、「健康について知らないことを教えてもらえ有意義であった」「銀行とコーヒーは結びつかなかったが、面白かった」との声をいただきました。

●「夏休み親子経済教室」～「株」って何?～　●WWFロビー展開催。CSRコーナーを設置し支店活動を紹介　●ピンクリボン スマイルウオークへの参加　●粗品にエコバッグ、エコ洗剤等を使用　●店内にてCSR標語を募集し実施

兵庫県神戸市中央区後幸通8丁目1番6号　神戸国際会館2階
電話 078-231-2347

兵庫県盲導犬協会による 職員向けセミナーの開催

明石支店

お客様から一層の安心感や、信頼感をいただけることを目指して、社会福祉法人兵庫県盲導犬協会による職員向けセミナーを開催しました。セミナーでは講演、ビデオ鑑賞のほか、体験歩行を通じ目の不自由な方への接し方を実地で学びました。また、遺産の一部を寄付したいと考えているお客様を当協会にご紹介し、大変喜んでいただきました。

●「60歳のラブレター」ロビー展　●福祉施設が製作したカレンダーを配布

兵庫県明石市大明石町1丁目6番31号　電話078-917-2311

港区授産施設「工房ラピール」の 活動内容の紹介

虎ノ門コンサルティングオフィス

港区授産施設「工房ラピール」を支援し、具体的活動内容と作品を紹介するロビー展を開催しました。作品や作成風景写真の展示だけでなく、実際工房で使われている工具を設置するなどお客様が直接体験できるよう工夫しました。また、工房の作品を購入し、贈答品としてお客様にお配りしました。これらの取り組みは大変好評で、工房からも当店ロビーで活動を知り、問い合わせてこられたお客様が多かったと連絡をいただきました。

●ピンクリボン運動への参加　●港区協同「やめよう!歩行喫煙キャンペーン」への参加　●「幼い難民を考える会」写真展　●港区主催のセミナーにつき当店セミナールームを貸し出し

東京都港区西新橋1丁目7番1号　電話03-3508-0100

「60歳のラブレター」朗読会の開催

東京中央支店

平成20年1月にNPO法人日本朗読文化協会の協力を得て、1階ロビーにおいて、「60歳のラブレター」朗読会を開催しました。今年で4回目となったこの催しは、当社が企画している「60歳のラブレター」の優秀作品の中から、30作品を選び、同協会の協会員に朗読をしていただく企画です。60名余りの参加者は、1枚のはがきに綴られた愛情と感謝の思いを、協会員が情感込めて読まれるのに聞き入っておられました。

●隣接する小学校の児童向け「マネー教室」開催　●ピンクリボン運動への参加

東京都中央区八重洲2丁目3番1号　電話03-3286-8111

私たちも使っています!! エコバッグ&マイ箸

上野支店

モーニングサービスと命名し、朝10時までにご来店いただいたお客様を対象として、エコバッグ、マイ箸をお渡ししました。お渡しする箸、エコバッグに“私たちも使っています!!”と題し、コメントを添えさせていただきました。そこには環境について皆様が考えるきっかけ作りをしたいという思いから森林伐採の現状と100年後には地球上から森林がなくなる危険性、年間で使用されるレジ袋の量とそこにつぎ込まれる石油の量、そしてレジ袋を廃棄する際に排出されるCO_2がもたらす被害について記載しました。お客様からも好評で、朝早い時間にご来店いただくお客様も増え、またエコについての話も弾みました。

●川柳発祥地として地元文化へ貢献している“台東川柳人連盟”への協賛。連盟のご協力をいただき川柳ロビー展の開催　●店周辺のクリーン活動、放置自転車の整理活動

東京都台東区上野1丁目20番8号　電話03-3831-3121

ベルマーク運動への協力

柏コンサルティングオフィス

平成19年11月からベルマーク運動を応援しています。ロビーやATMコーナーに収集箱を設置し、当店で口座をお持ちのお客様全員に送付したキャンペーンのご案内レターの中にベルマーク運動を紹介するスリップを同封し、協力をお願いしました。その結果、平成20年2月には2485.8点を地域の千葉県立柏特別支援学校に寄付することができました。こういった活動は、ベルマーク新聞・ベルマーク財団ホームページでも紹介されました。

●セミナー「メタボリックシンドローム予防」の開催　●ロビー展「途上国の地域開発を進めるNGO・プランジャパンの活動内容紹介」「臓器移植提供普及活動」　●柏西口商店街清掃ボランティア参加（毎月）　●献血活動（半期に一回）

千葉県柏市旭町1丁目1番2号　電話04-7147-5011

NPO法人とタイアップした「相続・遺言講座」の開催

多摩桜ヶ丘コンサルティングオフィス

多摩市内で生涯学習事業活動をメインとするNPO法人TCCから依頼を受け、平成19年10月より同法人主催のTAMA市民大学多摩コミュニティカレッジ内での「相続・遺言講座」の講師を当店の財務コンサルタントが務めています。月1回全6回シリーズを多摩市永山公民館にて開催し、いずれも20～30名が受講され、大盛況でした。好評につき平成20年4月からは場所を多摩市関戸公民館に移し、同シリーズを開催中です。

●社会福祉法人多摩市社会福祉協議会の月報を店頭に設置　●使用済みプリペイドカードを収集しジョイセフ（家族計画国際協力財団）へ寄贈

東京都多摩市関戸1丁目7番地の5　電話042-375-0111

渋谷の今と昔の写真展の開催

渋谷支店

渋谷駅周辺の昭和初期から30年代の写真や古地図と現代の写真をロビーに展示しました。写真については当店が保存していたもののほか、渋谷区立中央図書館、白根記念渋谷区郷土博物館のような地元の施設・団体の協力を仰ぎました。地元色を前面に出す写真展だったことで、「昔を思い出す」「小学校時代が懐かしい」などの、お客様の声をいただきました。また、ご来店のお客様への「べっこう飴」「こんぺいとう」などの懐かしいお菓子の贈答品も好評でした。

●マクドナルド財団によるロビー展　●NHK出版「乳がん治療日記おっぱいがたいへん」をロビーにて紹介

東京都渋谷区神南1丁目22番3号　電話03-3463-7121

ユニセフ外国コイン募金活動への参加

池袋支店

全員が参加できるWith You活動として、当店のクリスマスパーティーにて外国コイン募金を行いました。「海外旅行などで余った外国コインを集めて開発途上国の子供たちのために役立てよう!」という呼びかけにより、両替ができず自宅の机の中に眠っていたアメリカ・中国・インドネシアなど様々な国のコイン110枚をユニセフへ送ることができました。後日ユニセフより感謝状をいただき、職員のWith You活動への意識も高まりました。

●WWF世界の野生希少動物のパネル展　●池袋東地区における清掃活動へ参加　●ピンクリボン運動への参加　●贈答品としてエコバッグを採用

東京都豊島区東池袋1丁目41番7号　電話03-3984-6611

新宿駅東口周辺のクリーン活動への参加

新宿支店

地域商店街と協力し、新宿駅東口周辺の清掃活動に1年を通して積極的に参加しています。また、毎月2回、平日の日中に行われる「ゴミ拾い」「歩道のガム取り」などの「クリーン新宿」活動や「タバコのポイ捨て・路上喫煙禁止パトロール」「放置自転車撤去ステッカー貼り」などの活動にもロビースタッフを中心に参加しており、人が集まる新宿の街をあげての浄化と美化に貢献しました。特に、クリスマスシーズン恒例の「新宿年末クリーン大作戦」は平成19年で5年目になります。出勤前の早朝に約30名の職員有志が参加し、商店街の一員として、自分たちの街の環境改善への意識を深めています。

●使用済みプリペイドカードを収集しジョイセフ（家族計画国際協力財団）へ寄贈　●防犯・住宅・土地の有効活用・税制・健康などに関する情報提供セミナーの開催

東京都新宿区新宿3丁目26番11号　電話03-3354-2112

ドナルド・マクドナルド・ハウス「せたがやハウス」への寄贈

青葉台コンサルティングオフィス

「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は病気で長期入院されているお子さんとそのご家族のための宿泊施設です。私たちにも何かできないかとの思いから、平成19年11月に「せたがやハウス」を訪問しました。そこで、様々な日用品が寄付で賄われていることを知り、お客様に贈答品の寄付を呼びかける活動を始めました。重要なのはより多くの方々にハウスのことを知っていただくことです。その気持ちを大切に、今後も活動を続けていきたいと思います。

●ベルマーク収集（職員で約2,285点収集、青葉台小学校へ進呈）　●店舗前の落ち葉清掃　●青葉台商店会の防犯パトロールへの参加　●防犯・防災ダブルセミナー開催　●「ストップ温暖化!～地球環境の危機を考える～」セミナー開催

神奈川県横浜市青葉区青葉台2丁目9番2号　電話045-984-2611

「ふれあい夏祭り」へのボランティア参加

吉祥寺支店

毎年7月、吉祥寺公園通り商店会主催による「ふれあい夏祭り」が2日間開催されます。地域の子供たちとの交流をテーマに、盆踊り大会や数多くの露店も出店し、延べ6千人が集まります。当店もボランティアとして毎年参加しており、平成19年は「射的コーナー」を担当しました。子供から大人まで地域住民の皆様に大いに楽しんでいただけました。

●武蔵野市主催ボランティア清掃活動への参加　●「吉祥寺公園通り商店会」主催の早朝清掃活動への参加　●吉祥寺支店のお客様作品による絵画展　●「60歳のラブレター」ロビー展　●「60歳のラブレター」朗読会

東京都武蔵野市吉祥寺本町2丁目2番14号　電話0422-22-3681

「エコプロダクツ2007」ロビー展の開催

立川コンサルティングオフィス

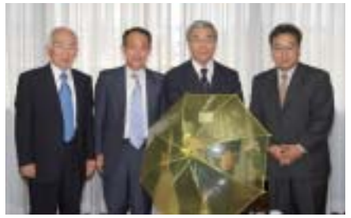
平成19年12月、東京ビッグサイトで開催された環境イベント「エコプロダクツ2007」に当社が出展したパネルを用いてロビー展を開催しました。展示内容については、当社が推進している不動産の環境配慮を促進する事業を紹介したパネル、および共同で出展した（社）日本ナショナルトラスト協会の活動内容を紹介したパネルを組み合わせました。

●エコキャップ運動の推進

東京都立川市曙町2丁目4番5号　電話042-548-2311

八王子市（親切会）に「親切傘」600本を寄贈

八王子支店



支店開設25周年を記念し、八王子市役所が運営する八王子市親切会に「親切傘」600本を寄贈し、設置場所として店頭を開放しました。「親切傘」とは、昭和39年に「親切都市」を宣言した八王子市が、不意の雨降りの時に市民が利用できるよう、公共施設に設置している善意の傘です。JR八王子駅前に立地する当店は、この善意の活動に参画すべく八王子市に申し入れ、民間団体で初めて寄贈につながりました。平成19年10月、八王子市役所に黒須八王子市長、岡部副市長を訪問し傘の寄贈セレモニーを行い、感謝の言葉をいただきました。

●八王子市学園都市推進会議2007年学生フェスティバルへの協賛　●八王子祭りへの協賛　●八王子市立第五中学校から職場体験の受け入れ　●犯罪被害の児童救済機関として登録　●八王子市の子育て支援機関として登録　●職員による使用済切手の収集

東京都八王子市旭町1番4号　電話042-645-1611

オフィスペーパーリサイクル活動の推進

越谷支店

越谷市内の有志企業・事業所とともに、廃紙・段ボールなどの効率的な回収と資源化に取り組み、資源循環型社会の実現に寄与するリサイクル活動を行っています。また、年に一度開催される「越谷市環境大会」のエコバザールでは、再生紙を利用したトイレットペーパーを格安販売し、当店のリサイクル活動を市民の皆様にPRしています。

●越谷市清掃活動に参加　●「越谷市打ち水大作戦」に参加しロビーにてお客様へ打ち水月間をPR　●三井住友海上火災保険と共同でエコバザールに出展し、収益金を越谷市社会福祉協議会へ寄付　●環境にやさしく、洗剤を使用しないで食器等を洗える「ニットたわし」のPRロビー展を開催しお客様へたわしのプレゼントを実施　●お客様への年末年始のご挨拶は「チャリティークリスマスカード」を使用

埼玉県越谷市弥生町14番22号　電話048-965-8121

北本自然観察公園での公園整備活動への参加

大宮支店

支店内の有志メンバーによる公園整備のボランティア活動を北本自然観察公園にて行いました。同公園は埼玉県の「里地里山」の自然環境を残し、野生の生きものの生息場所として重要な役割を持っています。当日は雑木林の中に入り、慣れないのこぎりやなたに苦戦しながらもイチョウの木を伐採し園路補修用の杭作りに汗を流しました。その後、自然公園の写真とともに本活動のご報告を兼ねた写真展を支店ロビーにて開催しました。

●環境保護ロビー展　●大宮支店周辺の早朝クリーン活動　●職員向け高齢者疑似体験（当店サービス介助士による指導）　●未使用、書き損じハガキを（社）日本ユネスコ協会連盟へ寄付し感謝状をいただく　●職員有志による献血活動

埼玉県さいたま市大宮区大門町1丁目6番地の1　電話048-643-6311

地元千葉のPR活動へ協力

千葉支店

地元の観光情報を紹介する千葉TV「旅テレ」に協賛し、この番組をロビーでも放映しました。また、千葉県観光協会とタイアップし同協会のキャンペーンにあわせてロビー展を開催し、名産品や観光地のパンフレットや伝統工芸品の「房総うちわ」を設置、葛ゼリーやピーナッツせんべいなどの千葉の特産品をご来店いただいた皆様にお配りしました。

●「サクセスフルエイジング（豊かな老後）セミナー」連続の開催。資産運用と老後「楽しみ」に関する情報も提供　●「マイ箸マイカップ運動」の実施　●「エコ省エネ」ロビー展　●「すみしん千葉文庫」の設置　●店舗改装などによりバリアフリー化とセキュリティを強化　●「九十九里クリーンハイク（清掃活動）」に2年連続で参加

千葉県千葉市中央区富士見1丁目1番15号　電話043-303-6111

エコキャップ運動の推進

津田沼支店

ペットボトルのキャップを回収しワクチン購入費にあてる「エコキャップ運動」は、環境、資源、福祉といったテーマに、子供からお年寄りまで市民レベルで取り組める極めて社会的意義が高い運動であることから、当店も参加しました。日常生活のなかで大量に廃棄されるペットボトルのキャップを、一般のゴミに混ぜてしまうと、焼却処分されてCO_2の発生源になります。また埋め立て処分されると土壌を汚染し地球環境の破壊につながります。地球温暖化の進行が心配されているなかで、ボトルキャップを分別回収することにより再資源化を促進し、CO_2の発生を抑制でき、そしてキャップの売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けることができます。また、それは国境を越えた未来へのすばらしい贈り物にもなります。当店では今後もこのエコキャップ運動を継続していく方針です。

●谷津干潟クリーン作戦の推進

千葉県船橋市前原西2丁目14番5号　電話 047-478-6111

（社）日本ユネスコ協会連盟との共同活動

所沢支店

（社）日本ユネスコ協会連盟が行っている世界寺子屋運動の支援の一環として、平成18年度より「書き損じハガキ回収活動」を継続的に行っています。また、今年度は「アジア・世界遺産プロジェクト～守ろう危機遺産」をテーマに同連盟より講師を招き共同セミナーを開催し、ロビーではパネル展および映像の放映を行いました。多くの方に世界遺産というテーマを切り口に同連盟の活動にご興味を持っていただきました。

●能登半島復興支援活動ロビー展 ●「60歳のラブレター」作品ロビー展、地元メディア放映 ●日本ユネスコ協会世界遺産ロビー展、共同セミナー開催、書き損じハガキ回収活動

埼玉県所沢市日吉町12番1号　電話04-2924-6111

湘南海岸清掃活動の開催

横浜支店

平成19年9月に湘南海岸清掃を実施しました。神奈川県内の港南台支店や藤沢支店、相模大野支店、青葉台コンサルティングオフィスにも呼びかけ、総勢50名の職員とその家族が参加しました。自分たちの暮らす街を、より美しく住み良い街にしたいとの思いから企画しました。今後も地域に密着した活動を展開していきたいと考えています。

●「横浜市子ども安全の日」PRロビー展　●横浜市G30（ゴミゼロ）活動ロビー展　●UNICEFロビー展　●店舗周辺の清掃活動（毎朝）

神奈川県横浜市西区南幸1丁目14番10号　電話045-311-5701

肩・腰・ひざの痛みを改善する セルフリラクゼーション体験セミナーの開催

港南台支店

平成20年3月、当店ロビーにて「健康」をテーマとしたセミナーを開催しました。ヨガマットを使い骨格のチェックをしたり、ストレッチポールを使い健康的な体を維持・増進するためのセルフリラクゼーションを体験しました。当店のお客様に関心が高い「健康」をテーマとしたことで、「参加してよかった」などの好評の声を多数いただきました。

●夏休み1日マネー体験ツアー　●楽しく笑って賢く残す～相続・落語セミナー　●湘南海岸清掃活動への参加　●能登半島復興支援活動　●横浜市子ども安全ネットワークロビー展

神奈川県横浜市港南区港南台3丁目15番2-102号　電話045-832-1171

エコバッグでCO_2削減！ 防犯ブザーで安心サービス！

藤沢支店

当店では、贈答品に「エコバッグ」を取り入れています。CO_2の削減につながるエコバッグは、お客様からも「実用的で使いやすい」とご好評の声をいただいています。また、窓口で多額の現金出金をされるお客様へ防犯ブザーの貸し出しを始めました。今後ともお客様に身近な社会貢献活動を行っていきます。

●「藤沢市ごみ減量推進店」活動　●湘南青色申告会でのセミナー実施（第一部テーマ:心の健康、第二部テーマ:SRIファンドの紹介）　●湘南海岸清掃活動への参加

神奈川県藤沢市鵠沼東1番2号　電話 0466-27-3100

東北電力ビッグスワンスタジアムで健康セミナー開催

新潟支店

サッカーJ1地元人気チームのアルビレックス新潟とタイアップして健康セミナーを開催しました。60歳以上のお客様をご招待してアルビレックスグループ専属トレーナーによるシニア向けの健康指導を受けていただきました。健康ウォーキング、体力測定、筋力トレーニングなど約1時間心地よい汗を流し、お客様からはこれなら家庭でも簡単にできると大変好評でした。この様子は「アル美健康倶楽部」のホームページでも紹介されました。

●県立新潟養護学校の児童生徒の作品展（2年連続開催）　●障がい者の方の書道、絵画展　●佐渡金銀山の世界遺産登録活動ロビー展複数開催（新潟県教育委員会後援）　●市民クリーンアップ作戦（新潟市主催清掃活動）へ参加　●中越沖地震ボランティア活動　●地域イベント「新潟ジャズストリート」ロビー展　●「60歳のラブレター」ロビー展（地元CATVとタイアップ）　●アンチエイジングの旅セミナー（JTBとタイアップ）　●献血活動　●使用済み切手収集活動　●オール電化住宅推進セミナーへの協力（東北電力（株）とタイアップ）●成年後見人制度啓発セミナー（新潟公証役場とタイアップ）

新潟県新潟市中央区上大川前通六番町1178番地の1　電話025-224-2111

環境問題をテーマとしたロビー展の開催

札幌支店

札幌市役所からパネルの提供を受け、「地球温暖化対策・CO_2削減ロビー展」を開催しました（平成20年1月）。期間中、日常生活でできる「エコ行動」を紹介した「エコライフレポート」をロビーやカウンターに設置しました。レポートをご提出いただいた皆様には、札幌市で配布されている「エコスタンプカード」を窓口でお渡ししました。また、支店職員もレジ袋の削減量を木の葉に換算する「エコの木植樹」に取り組みました。

●札幌市役所の出前講座「防ごう地球温暖化」「ごみの減量とリサイクル」を受講（札幌支店職員を対象に）　●ピンクリボン運動への参加　●札幌市役所よりパネルを借り受け、ごみ減量をテーマにしたロビー展を開催（2月19日、北海道新聞夕刊に写真入りで記事が掲載された）

北海道札幌市中央区北1条西3丁目3番地　電話011-251-2171

鶴見川源流ウォークと 「泉のひろば」の清掃活動への参加

相模大野支店

当店では源流の森と水辺の再生に取り組むNPO法人の活動に参加し、同法人スタッフの案内のもと鶴見川源流域の中心部にある湧水池の「泉のひろば」までウォーキングしました。このウォーキングでは多様な生物が生息できる環境を肌で感じるとともに「泉のひろば」清掃活動を通じ透明度を取り戻す湧水池から自然と生活環境の調和を学びました。

●防災・防火、インフルエンザ予防、温暖化防止に関するロビー展の開催　●「良い夫婦の日」に遺言、夫婦にやさしい住宅設計、より良い夫婦のあり方をテーマにセミナーを開催　●湘南海岸清掃活動への参加

神奈川県相模原市相模大野 3丁目13番7号　電話042-765-1317

富士山（青木ヶ原樹海）清掃活動の実施

甲府支店

平成19年9月に静岡支店と甲府支店が合同で、恒例の「富士山（青木ヶ原樹海）清掃活動」を当社職員とその家族122名が参加して実施しました。この活動は日本の象徴である美しい富士山を後世に残すため、平成17年から会社をあげて取り組んでいるものです。なお、当日の様子を撮影・編集した動画コンテンツは、当社ホームページおよびグリーンTVジャパンにおいて見ることができます。

●献血活動（6月・11月）　●ベルマーク活動に参加し収集したベルマークを盲学校へ寄贈　●エコキャップ運動に参加し3666個（ワクチン4本分）のペットボトルのキャップを回収　●「60歳のラブレター」ロビー展　●ピンクリボン運動への参加

山梨県甲府市丸の内1丁目17番14号甲府センタービル
電話055-226-3000

ドナルド・マクドナルド・ハウス 「せんだいハウス」でボランティア参加！

仙台支店

平成20年1～2月にかけて、ドナルド・マクドナルド・ハウス活動に関するロビー展を開催し、期間中、店頭受付者全員が同ハウスのバッジを付け、お客様に同ハウスの活動をご説明しました。また、同ハウスへ寄贈する折り鶴作りを、お待ちいただいている時間を活用し、お手伝いいただきました。平成20年3月には、職員7名がボランティア活動として同ハウスにおいてベッドメイキングやリネンのアイロンがけ、フロア清掃などをお手伝いし、最後にお客様と一緒に作った千羽鶴を寄贈しました。

●ピンクリボン運動への参加:ピンクリボン スマイルウオークへの参加。セミナー・ロビーでの啓発活動を実施　●ロビー展の開催（UNHCR 難民支援活動・WWF・「60歳のラブレター」など）　●ライフプラン・生活習慣病やがんについてのセミナーを開催（毎月）

宮城県仙台市青葉区中央2丁目2番10号　電話022-224-1144

ピンクリボン運動の推進

静岡支店

当社が協賛するピンクリボン運動をPRしました。当地においてはピンクリボン運動があまり普及していないことから、店舗を綺麗に装飾し活動を盛り上げました。特に、ショーウィンドーではパネルなどを掲示し、ご来店のお客様以外にも広くPRができるよう努めました。

●国際アビリンピック、技能五輪国際大会のPR　●紺屋町商店街とのタイアップによる、「まちかど情報コーナー」(西側ショーウィンドー)の設置　●富士山ロビー展　●富士山清掃活動（甲府支店との協働）　●ピンクリボン運動への参加　●「60歳のラブレター」作品展　●認知症サポーター養成講座

静岡県静岡市葵区紺屋町3番地の10　電話054-254-6411

地球環境パネル展の開催とマイ箸普及活動への参加

名古屋支店・名古屋駅前支店

平成22年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋で開催されます。名古屋・名古屋駅前両支店は共催で平成19年12月に森林伐採による環境破壊の窮状を訴えるパネル展を開催しました。ボーナス時期で賑わうロビーではお客様から「いろいろ環境について考える良い機会になった」と共感のお言葉を多数いただきました。また、お客様に「家庭で行うエコ活動」アンケートを行い、回答のお礼として再生紙で作った箸「パピルスティック」を進呈し、環境問題に関する理解を深めていただきました。両支店では「マイ箸使用」を社内外に推奨し、社内では食堂から割り箸をなくすなど職員全員で進めています。

【名古屋支店】●「60歳のラブレター」パネル展開催　●ピンクリボン運動への参加
【名古屋駅前支店】●「新春書道展」
【共催】●名古屋市一斉クリーンキャンペーン参加（久屋大通り公園清掃）　●名古屋住友クラブ「社会貢献活動」に企画運営委員会メンバー（7社）として参画

名古屋支店／
愛知県名古屋市中区栄4丁目1番1号（中日ビル）　電話052-261-1351
名古屋駅前支店／
愛知県名古屋市中村区名駅4丁目8番14号（ミッドランドスクエア南隣）
電話052-582-5171

桂 三若の落語会と遺言セミナーの開催

金沢支店

桂 三枝一門の桂 三若（かつらさんじゃく）さんを招き落語会を開催しました。平成19年10月に職員向けに開催し、落語を楽しみながら、話しだけで人の笑いを取る“落語の間”を学びました。平成19年11月にはお客様をお招きして第1部落語、第2部遺言セミナーの構成で開催しました。第1部で大いに笑って健康になっていただいた後、第2部では遺言セミナーで遺言の重要性を理解していただきました。

●金沢市、地元大学と共同した町並み活性化活動に協力し、当店ショーウィンドーに地元大学生の美術品を展示

石川県金沢市尾山町3番13号　電話076-261-7171

暮らしの防犯セミナーの開催

岡山支店

「セキュリティ（防犯・防災）」「サクセスフル・エイジング（豊かな老後）」をテーマとして2部構成のセミナーを開催しました。そのうち、第1部は今、話題の振り込め詐欺等の金融犯罪に関して、地元岡山の発生状況や防止対策について「暮らしの防犯」と題して岡山県警の講師協力によるセミナーを開催しました。実際にあった被害事例を参考に、どういった点に気を付ければ被害に遭わないかなど、誰にでも被害に遭う可能性があることを訴え、非常に好評でした。第2部は、「今のうちにしっかり相続対策」と題して財務コンサルタントによる講演を行いました。

●ロビーに「60歳のラブレター」コーナーを設置　●ピンクリボン運動への参加　●ロビーへの健康器具（血圧測定器、マッサージ器）の常設

岡山県岡山市駅元町1番5号　電話086-231-2121

芦田川写真・パネル展の開催と福山駅前周辺ゴミ清掃活動への参加

福山支店

平成19年4月、環境対策が課題となっている地元の一級河川「芦田川」に関する写真展を開催しました。中国新聞の記者が撮影した写真と、読者から募った写真コンテスト「私の芦田川」の入賞作品を展示し、地域の環境改善に関心を持っていただく事ができました。また、毎年6月の「芦田川を守る日」には福山市が行う市内一斉清掃活動に当社職員も参加し、福山駅前周辺のゴミ清掃を行いました。

●ロビー展開催：60歳のラブレター展・ピンクリボン運動展・書道展・当店の市民開放スペース「ふれあいサロン」の利用客による水墨画と染色画展・WWFパネル展（福山市のゴミ分別方法について細かく表示）

広島県福山市元町15番1号　電話084-931-1101

里山整備活動への参加

山口防府支店

「やまぐち食と緑と水の県民フォーラム」に参加し、平成20年1月防府市浦地区の里山整備（竹林伐採）を行いました。同地区は防府市南部の海沿いにあり、漁業が盛んであるとともにみかんの栽培も行われていましたが、近年竹林の荒廃が著しくまた地域住民の高齢化も進み伐採が思うように行えないので協力してほしい、という要望にお応えしたものです。当日はあいにくの雨模様でしたが「竹林ボランティア防府」や地元「やすらぎの会」の皆様とともに協力して竹林伐採活動を行いました。
この様子は「やまぐち食と緑と水の県民フォーラム」ホームページの「農山漁村と企業等の協働活動紹介」の山口地区の活動として紹介されるとともに山口ケーブルテレビや地元紙でも報道されました。

●「愛情防府フリーマーケット」に金曜会（銀行協会）メンバーとして参加
●「落語全国武者修行ツアー」中の上方落語家桂 三若さんを招き、“笑いは健康のもと”セミナー開催

山口県防府市戎町1丁目4番24号　電話 0835-22-2300

交通安全ロビー展の開催

広島支店

春の交通安全週間（4月）に先立ち、広島中央警察署、広島県交通安全協会の協力を得て、交通安全に関する職員手作りポスターや、地元小学生の作文の掲示、交通安全グッズの反射判バンドの店頭配布などを行いました。新学期を控えた時期で、お客様の関心も高く、「住信のロビーで見た」と交通安全協会にグッズを求めに行かれたお客様もいらっしゃいました。

●お客様参加の折り鶴（千羽鶴）：平和記念館への寄贈を目的に、ご来店のお客様に折り鶴の折り方をパネルにて案内。手先の器用なロビーマン作成のミニ折り鶴（1cm×1cm）も展示し、希望された方にはプレゼント　●「60歳のラブレター」ロビー展　●障がい者福祉施設の手作り製品の進呈

広島県広島市中区紙屋町2丁目2番12号　電話082-247-7221

伝統的特産品ロビー展の開催

松山支店

伝統的特産品の技術後継者の育成を目的として愛媛県などが開催している「21世紀えひめの伝統工芸大賞」受賞作品のロビー展を愛媛県庁とタイアップして開催しました。平成19年8～9月に「女流作家展」、平成20年1月に「伝統工芸大賞受賞作品展」を開催しましたが、お客様から好評を博し、真珠製品や木竹工芸品などの作品に「ユニークな工夫があって面白い」と見入っている方もいらっしゃいました。また、展示会の様子が愛媛新聞に掲載されました。

●隣接する小学校の通学路見張り番（毎週火曜日・木曜日に実施）
●小学校6年生を対象にインターネットを活用した環境教室を開催

愛媛県松山市三番町4丁目11番地1　電話089-932-2211

ラブアースクリーンアップ2007（清掃活動）への参加

福岡支店

平成19年6月にNPO法人クリーンふくおかの会と自治体などが共催する「ラブアースクリーンアップ2007」（海岸ボランティア清掃活動）が福岡市内87ヵ所で行われ、約3万6千人が参加しました。当店は職員およびその家族計30名が住友二水会（住友グループの会）の一員として参加し、「海の中道海浜公園」のエリアを清掃しました（福岡市内全体で234万トンのゴミを回収）。この清掃活動を通じ、職員一人ひとりの「ポイ捨てはダメ」という意識を醸成することができました。

●ピンクリボン運動への参加　●プリペイドカード回収活動　●盲導犬協会の発行する機関誌をロビーに設置

福岡県福岡市中央区天神2丁目12番1 号　電話098-781-1531

「ありがとうを届けたい」親から子、子から親へのハガキ

熊本支店

素直に「ありがとう」と言えたらいいのに。そう思うことがありませんか？ 親子だとなかなか言えないことも多い、でも、一番伝えたい大切な存在。当店では、皆様の大切な想いを伝えるお手伝いをと考え、「親から子、子から親へのハガキ」を県内全域で募集し、発表会を開催しました。当日は多くの方にご来場いただき、後日、地元新聞に発表会の感想が投稿されるなど、住友信託銀行を熊本の皆様にとって身近に感じていただける機会となりました。

●乳がんに関する講演会　●長崎平和祈念公園へ千羽鶴の寄贈　●エコキャップ運動の推進　●熊本城築城400年記念の写真展　●Jリーグ・ロアッソ熊本応援キャンペーン　●熊本善意銀行活動紹介パネル展の開催

熊本県熊本市手取本町2番5号　電話096-355-3212

バンクストリートカレッジの生涯教育プログラムへの支援

ニューヨーク支店

地域社会への貢献を目指し、特に恵まれない若者援助のため、ハーレムにあるバンクストリートカレッジの生涯教育プログラムを支援しています。年間2万ドルの寄付を行ったほか、7名の支店職員が、十分な機会に恵まれない高校生のメンター（助言者）となり、彼らの可能性を広げ、将来的に社会へ貢献できるようサポートしています。
当社の継続的な支援活動が認められ、平成20年5月には学部長から感謝状をいただきました。

●NYC Coat Drive（ホームレス越冬のためにコート類を収集・配布する寄付プログラム）に参加し、コート・冬着類を収集し寄付

527 Madison Avenue, New York, NY 10022, U.S.A.
Phone 1-212-326-0600

地元NPO法人との交流

シンガポール支店

平成20年3月、当地の有力NPO法人であるTOUCH Community Servicesによる当店職員を対象とする講演会を開催しました。テーマは、Speaking the Right Love Language - A Key to Better Communication（より良いコミュニケーションのための愛情のある言葉）というもので、支店職員が参加し、家庭、職場などにおいて人間関係を円滑にするための表現について学びました。

●TOUCHが主催するCity Walkに参加　●Standard Charteredが主催するシンガポールマラソンに有志が参加

8 Shenton Way #45-01 Singapore 068811　Phone 65-6224-9055

開店20周年記念活動「～ふるさとを余暇旅しませんか～」

鹿児島支店

開店20周年を記念して「～ふるさとを余暇旅しませんか～」をコンセプトに、地元の方々への恩返しの気持ちを込めた活動を展開しました。鹿児島ゆかりの篤姫や、旅行をテーマにした20周年記念講演会には、当店のお客様をはじめとした約200名の地元の皆様にご参加いただき、また、当店ロビーにて、ふるさと再発見の旅をテーマに、県内各地のパンフレットやポスター、焼酎などの特産品を展示したロビー展を開催し、各地の観光をPRすることができました。さらに開店20周年当日には、ご来店のお客様へバラを一輪ずつプレゼントし、お客様とともに「記念日」を祝うことができました。

●花火大会後の清掃活動　●ガールスカウト鹿児島支部を通じてミャンマーの子どもたちへ靴を寄付　●NPO法人日本ウミガメ協議会によるウミガメロビー展　●「笑いで健康!寄席」をテーマに落語健康セミナーを開催　●当店ショーウィンドーを活用した「まちかどギャラリー展」の開催

鹿児島県鹿児島市金生町7番8-101号　電話099-227-1131

Eton校生の職場体験受け入れ

ロンドン支店

イギリスの名門パブリック・スクールのイートン校に対して継続的に日本語教育に関する協力を行っています。同校の日本語講座開設に際して、平成2～6年に合計100万ポンドを寄付したことに留まらず、平成13年より同講座受講生を対象に職場体験の機会を提供しており、これまで通算8名の生徒を受け入れています。同校生受け入れ活動については、同校より高く評価いただいており、今後も積極的に受け入れる予定です。

●日英修好通商条約締結150周年を記念し、両国の関係をより深めるために平成20年秋から約1年間にわたって行われる予定の記念文化事業・行事への寄付を、同記念行事実行委員会に実施

155 Bishopsgate, London EC2M 3XU, U.K.
Phone 44-20-7945-7000

民工子弟学校への支援

上海支店

農村からの出稼ぎ労働者の子供が通う学校である民工子弟学校の子供たちに外国の銀行という今まで見聞きしたことのない世界を、当社職員と交流することにより身近に知ってもらい、子供たちの将来の夢の選択肢を大きく広げることをテーマに下記の活動を行いました。

●全校生徒1,200名強のうち成績優秀者54名に本・文具セットなどを贈呈
●子供たちと当社職員が合同で運動会を開催
●同校の小学生を対象に「将来の夢」をテーマとした作文（低学年は絵）のコンクールを実施し、応募者約60名の中から優秀者10名を選び、当社オフィスに招待

50F Jin Mao Tower, 88 Shiji Dadao Pudong New Area, Shanghai 200121, People's Republic of China　Phone 86-21-5047-6661

With You

SUMITOMO TRUST 住友信託銀行

みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

PRINTED WITH SOY INK
大豆油インキで印刷しています

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-2136
© 1996 Forest Stewardship Council

この冊子は、環境に配慮して【エコ綴じ】を使用しています。